

「さけが大きくなるまで」

1 単元の目標と評価規準

目標：時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにしている。	「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。	すすんで時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、文章中の重要な語や文を考えて選び出し、学習したことを生かして、自分の考えをもち、友達に説明しようとしている。

2 教材について

おわり		中								はじめ
⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	
まとめ	順序⑤ 答え			順序④ 答え	順序③ 答え	順序② 答え	順序① 答え		問い	
そして、大きくなって、たまごをうむ時が近づくと、北の海から自分が生まれたもとの川へ帰ってくるのだ。	ぶじに生きのこったさけは、三年も四年も海をおよぎ回る。			海には、たくさん食べものがあります。それを食べて、ぐんぐん大きくなる。	海の水になれて、体がしかりしてくると、いよいよ、広い海でのくらしがはじまる。	川を下ってきたさけの子どもたちは、一か月ぐらいの間、川の水と海の水がまじった川口の近くでくらす。	春になるころ、五センチメートルぐらいになったさけの子どもたちは、海におかって川を下りはじめる。	冬の間に、たまごからさけの赤ちゃんが生まれる。 やがて、四センチメートルぐらいの小魚になる。	やがて、水きれいな川上にたどりつくと、さけは、おびれをふるわせて、川ぞこをほり、たまごをたくさんうんで、うめてしまう。 秋になるころから、大人のさけは、たくさんあつまって、たまごをうみに、海から川へやってきて、川上へ川上へとすすむ。	

本教材は、さけが数多くの苦難に出会いながら成魚となり、自分が生まれたもとの川へ産卵のために帰る成長過程が書かれた説明文である。読み取りの手掛かりとなる、時間的な順序、場所的な推移、大きさの変化を表す言葉が要所に書かれた内容である。

3 単元計画(全8時間)

次	時	学習目標	学習活動
第一次	1	範読を聞き、感想をもって交流することができる。	○「これはなに?クイズ」をして、どのような文章か想像する。 ○範読を聞いて、感想をもつ。
第二次	2	さけの様子を捉え、問いの文に対する予想を立てることができる。	○①段落の音読をする。 ○キーワードの間違い探し・言葉の意味確認 ○問いの文章を探し、印を付ける。 ○地図を頼りに問いの文に対する予想を立てる。
	3	順序に気を付けて読み、地図や表にキーワードをまとめることができる。	○②③段落の音読をする。 ○キーワードの間違い探しをする。 ○地図をもとにさけが大きくなる「場所」と「大きさ」を調べる。 ○地図に「いつ」「大きさ」「様子」をまとめる。
	4 本時		○④⑤段落の音読をする。 ○キーワードの間違い探しをして、「いつ」「大きさ」「様子」に該当する言葉に印をつける。 ○地図をもとにさけが大きくなる「場所」と「大きさ」を調べる。 ○地図に「いつ」「大きさ」「様子」を短文でまとめる。
	5		○⑥⑦段落の音読をする。 ○キーワードの間違い探しをして、「いつ」「大きさ」「様子」に該当する言葉に印をつける。 ○地図をもとにさけが大きくなる「場所」と「大きさ」を調べる。 ○地図に「いつ」「大きさ」「様子」を短文でまとめる。
	6		○⑧⑨段落の音読をする。 ○キーワードの間違い探しをして、「いつ」「大きさ」「様子」に該当する言葉に印をつける。 ○地図をもとにさけが大きくなる「場所」と「大きさ」を調べる。 ○地図に「いつ」「大きさ」「様子」を短文でまとめる。
	7	本文の全体的な内容を振り返り、題名の理由を考える。	○⑩段落の音読をする。 ○問いの文について振り返る。 ○センテンスカードの中から解答文を探すクイズをする。 ○題名が「さけが大きくなるまで」になっている理由を考える。
	8	「さけが大きくなるまで」の中で、一番気に入ったところを発表し合う。	○さけが成長する過程を動作化する。 ○地図と表をもとに、センテンスカードを並べ替える。 ○一番気に入ったところを発表する。

4 全力参加のための手立て

ダウト読み

地図にまとめる上で重要となるキーワードをダウトにして注目させる。

→内容理解

地図を活用する

さけの成長を地図を活用して表し、文章が時系列に沿って書かれていることに気付く。

→文の構造理解

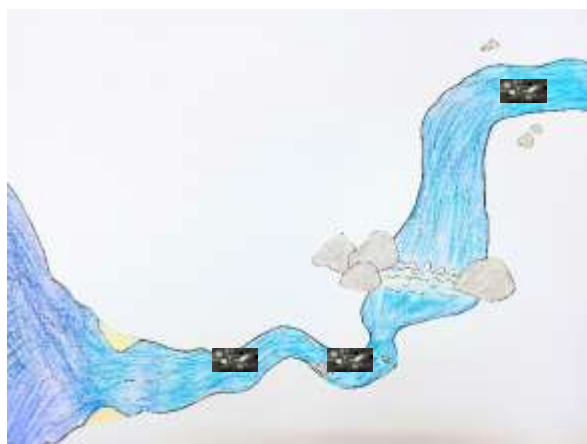
5 本時の展開 (全8時間中の第4時)

本時の目標：順序に気を付けて読み、表にキーワードの短文をまとめることができる。

時間	学習活動	・指導上の工夫 ▲個別の支援	評価規準 (評価方法)
導入 3分	1 本時の流れを確認する。 2 めあてを確認する。 さけの成長を わかりやすく まとめよう。		
展開1 17分	3 本文の間違い探しをする。 T:こうやって書かれていましたね。 C:そんなこと書かれていなかったよ。 C:どこが違うのかな。本文と見比べよう。 C:「11 月の間」じゃなくて「冬の間」だよ。 T:間違いが10こあります。さがしましょう。	・表にまとめるためのキーワード (「いつ」「どこで」「大きさ」「様子」)を間違えておく。 【ダウト読み】 ▲教科書は見た状態で探す。	 考えたい
展開2 15分	4 表に「いつ」「大きさ」「様子」を短文にしてまとめる。 5 地図にさけが成長する様子をペープサートで表現する。 T:表にまとめた言葉を手掛かりに鮭を泳がせましょう。 C:4段落はどこで生まれたか書いてないんだけど、どこなのかな? C:3段落の場所から変わってないんじゃないかな?	▲ダウト読みで見つけたキーワードをもとにワークシートにまとめさせる。【表にまとめる】 ・教科書の挿絵とさけの大きさ、さけが成長する場所に注目して、地図上でペープサートを操作させる。【視覚化】【共有化】 ・個人で取り組んだ後にグループで話し合わせる。	 伝えたい 事柄の順序を考えながら、地図にまとめることができる。 (観察・発言)

	ない？		
まとめ 10分	6 表にまとめた文章に合わせて、ペーパサートの動きを発表する。 T: 鮭の成長を他のグループに伝えましょう。	▲グループごとに発表させる。	

6 板書計画



⑤	④		
春	冬の間		いつ
五センチ	四センチ	三センチ	大きさ
海にむかって川を下る。	ふくろがなくなって小魚になる。	えいようの入ったふくろがついている。	ようす

さけが大きくなるまで

めあて さけの成長をわかりやすく
まとめよう。

・ダウト読みセンテンス

誤	⑤	④
	温かくなるころ、五十センチメートルぐらいになったさけの子どもたちは、山にむかって川を上りはじめます。水にながされながら、いく日もいく日もかかって、川を上っていきます。	十一月の間に、たまごからさけの赤ちゃんが生れます。大きさは三百センチメートルぐらいです。その時は、おなかに、赤いぐみの実のようなおかしの入ったふくろがついています。やがて、それがしぼんで、四センチメートルぐらいの <u>大魚</u> になります。



正	⑤	④
	春になるころ、五センチメートルぐらいになったさけの子どもたちは、海にむかって川を下りはじめます。水にながされながら、いく日もいく日もかかって、川を下っていきます。	冬の間に、たまごからさけの赤ちゃんが生まれます。大きさは三センチメートルぐらいです。その時は、おなかに、赤いぐみの実のような <u>栄養</u> の入ったふくろがついています。やがて、それがなくなって、四センチメートルぐらいの <u>小魚</u> になります。

7 授業観察の視点

- (1) 本時のねらいが達成されていたか。そのための指導法が考えられていたか。
- (2) 児童が全力参加する姿が見られていたか。
- (3) 分かりやすく、考えを深めたり広げたりするために有効な発問であったか。